

中間報告会と事例研究

本講座（実践⑤）のねらい

これまで、15講座（座学10回・実践5回）が行われて来ました。
そこで、今回の講座では、これまでの学習を振り返り、これまでの学びが
自分の中でどの様な形で消化してたのかを、

①具体的気づきとの向き合い方

②理論と現場（現実）をつなぐ振る舞いの有り様

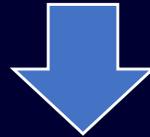
を通して、確認していく時間にしたいと考えています。



実践事例

の場を下にして進めます

この為、「事例」そのものの是非（評価）を問う場ではありません。



これまでの15講座で学んだ知識を下にして、

- ◇事業内容を「分析する手法」や
- ◇成果や課題を生かし解決する為の「プロセス」を、



- ①自分の「考え方の整理」と②他者との「違いの確認」について、
テクニカル・ターム（専門用語）を使って、意見交換します。

（これまでの学びをフル活用する）

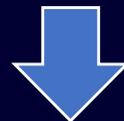
ここで大切なのは、課題解決手法ではありません。

その前の、

◇「良いところの」（強み）「弱点・課題」（弱み）の発見です。

すなわち、

◇良いところや課題の根本にある「事象」（資源・システム等々）
に着目するのです。



その事によって、自ずと解決への手段や資源の生かし方が見えてきます。
このような思考過程を磨くことで、応用力が付いてきます。

≡ 一般化

事例研究法（ケース・スタディー）

【 概 要 】

どこでも起こりそうな具体的なケース（事例、事件、出来事）を素材として、個人またはグループで討議し、

- ・ 本質を究明し、
 - ・ 問題点を分析したり、
 - ・ 解決策を立案したりすることによって、
- 問題解決能力や意思決定能力等を開発することを目的として活用されます。

ものの本質の見方や考え方を訓練することをねらいとした研修技法のひとつで、「事例検討法」ともいい、参加者は提示された事例について考察することによって、

類似の問題や状況における問題の解決に対する**応用力を養成**することができます。

シカゴ大学で最初に行われたことから、シカゴ方式ともいいます。

【特徴と効果】

- ①問題発見、問題分析、意思決定などの能力を開発します。
- ②ものの見方や考え方について、自分自身の考え方の傾向や他者の特徴を認識します。
- ③グループ討議の過程を通して、相互に啓発し合い、ものの見方や考え方をさらに広く深いものにします。

◇あるケースをモデルとして、個々の問題の中から共通の真理を引き出す洞察力を学習することもできます。

◇また、グループで取り組むことによって、グループ討議の過程を通して、受講者同士のもの見方や考え方の相違がすりあわせられ、そこから相互啓発が生まれます。

◇お互いのものの見方や考え方が、よりいっそう幅広いものや奥行きのあるものに開発されることが期待できます。

質問・問い合わせ先

HP: <https://welfare0622.org/>

E-mail : welfare0622@yahoo.co.jp

検索 : 地域福祉研究所 本間照雄